

令和5年度 学校関係者評価結果報告書

学校名	成田市立久住小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

<p>「夢をめざし 心豊かに たくましく生きる 児童の育成」 ○めざす学校像・子どもの夢や希望を育む学校・保護者や地域に信頼される学校・安全で教育環境が整った学校 ○めざす児童像・くじけず学習する子・ずっと仲良し心やさしい子・みんな元気でたくましい子 ○めざす教師像・教職のプロとしての使命感・実践力を持つ教師・児童・保護者・地域から信頼される教師・心身ともに健康で、心豊かな教師</p>	学校関係者評価委員
---	-----------

2 本年度の重点化された具体的な目標

<p>学校教育目標の実現をめざし、知・徳・体のバランスの良い児童の育成を目指し、全職員が協働する。 ①児童主体となる授業をめざし、「確かな学力の向上」を図る。②道徳の時間を要とし、児童の道徳的実践力を育成する。 ③日常的な取り組みから児童の体力向上を図ると共に安全指導を徹底し、危機予知・回避能力の育成を図る。④保護者・地域・関係機関との連携を密にして、信頼される学校づくりに努める。⑤管理・服務規則等を遵守し、不祥事を根絶する。</p>	海保茂喜 佐藤勇 橋本善和 田中ひで子 伊藤芳之 香取千代美 荒居英沙子 檜垣憲央 岩館史宜 笹岡一男 木村岳史 菅野優太 加藤かずみ
---	---

3 自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策	学校関係者評価	
					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
教育課程 学習指導	体験的な活動や外部人材の活用、教材の工夫など、わかりやすい授業実践に努めている。	保護者から92%の肯定的評価を得た。	A	学校支援ボランティアの協力体制が充実している。さらに継続させていく。学校での読書活動は充実してきているので、更に図書ボランティアによる読み聞かせなどの活動を進めていく。	A	A
	図書室の整備や読書タイムの実施、読み聞かせボランティアの推進など読書活動の充実に努めている。	肯定的評価は86%であるが、家庭での読書の習慣については47%と低くなっている。	A			
学校関係者による意見等	全体的に肯定的な意見が多く、学校・先生方の指導や取り組みが結果として表れている。読書に関しては、学校での取り組みが少しずつ結果として表れている。家庭での読み聞かせ等の読書習慣を進めていけるとよい。また、ボランティアによる読み聞かせなど学校の取り組みに期待したい。					
生徒指導 道徳教育 特別支援教育	思いやりや命の大切さ、きまりを守る等の態度の育成、道徳授業の公開による家庭との連携促進など、心を育いていじめのない集団づくりに取り組んでいる。	肯定的評価は78%であるが、他の項目の肯定的評価より、やや低くなっている。	B	道徳授業を一層充実させるとともに、日常の実践を図っていく。特別支援教育の理解を深める研修の推進や情報提供、具体的な教育活動の状況の周知をいっそう図っていく。	A	A
	子どもの特性(わかり方・感じ方・表し方等)の理解に努め、保護者との連携を重ねながら特別支援教育の充実に努めている。	肯定的評価は75%であるが、他の項目の肯定的評価よりやや低くなっている。	A			
学校関係者による意見等	生徒指導面では、挨拶を伸ばしてほしい。道徳教育の目標達成は、個人や家庭の考えもあるが、授業や日々の生活の中で養われるとよい。公園の使い方と周辺住民の理解は、地域の問題であり、理解を求めため地域での呼びかけ等で学校を支援していきたい。不登校児童については、子供の心や家庭の問題に学校も適切に対応している。学校も地域もなかなか家庭の問題に踏み込むのは難しいと思うがいろいろな目でフォローしていけるとよい。					
地域・ 家庭連携	保護者や地域の声に耳を傾け、課題を共有し、子どものより良い教育環境のために連携に取り組んだり支援を行ったりしている。	保護者の肯定的評価は76%であるが、他の項目の肯定的評価よりやや低くなっている。	B	教育活動へのボランティア参加を呼びかけ、地域と一体になった教育支援と理解を図っていく。PTAや学校支援委員会との連携を深め保護者とのつながりを増やす方策を練っていく。	A	A
	保護者や地域は学校の教育方針を理解し、教育活動を支援している。	保護者の肯定的評価は78%であり、他の項目の中で一番低い評価である。	B			
学校関係者による意見等	ボランティアの募集や行事の周知は早目に周知すると、保護者も関りが増える。2～4年生の保護者はコロナ禍のため、ほとんど学校行事が行えず、学校との関わりが少ない、学校の方向性や考えを明確に発信して欲しい。久住小は、学校支援委員会など地域との関わりの基盤ができている。半面、保護者の関りが少ないので増やしていけるとよい。					

4 次期の重点目標と改善のための方策

<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程や学習指導については、高い評価を頂いている。今後も体験学習や外部人材を取り入れた学習の場の工夫や教員の研修を深め児童の学力向上につながる指導を探索していく。 ・読書活動の活性化をさらに深めるために、図書活動の充実や読み聞かせボランティアの実施、家庭での読み聞かせの啓発を積極的に行い、連携を強化していく。 ・生徒指導・道徳・特別支援については、授業規律定着の取り組みの重点化や学校と家庭での生活指導の連携強化を進めていく。また、特別支援については、引き続きこの特性に応じた支援を保護者と共通理解を深めながら実施していく。 ・地域・家庭連携については、保護者の理解を深めるために、学校へ来る機会を増やしたり、各便りを通して、学校経営の方向や具体的な手立てを発信し、理解を深めていく。 ・登下校時の見守りや公園の遊び方については、地域や保護者・PTAと協力体制を築きながら、連携を強化していく。そのために学校地域支援本部事業を有効に活用していく。
--